

編集後記

第 29 巻 2 号をお届けします。

巻頭言には徳島大学の田中先生からご寄稿いただきました。先生は 11 月 16 日に開催された「第 50 回フローインジェクション分析講演会」の実行委員長をお努めになり、ご苦労様でした。先生はロックイン検出法を導入するなど新しい視点に基づくフロー分析に取り組んでおられますが、独自の着想がどのような経緯で開発されてきたのかがよく理解できました。海外からは 2013 年 9 月にポルト（ポルトガル）で開催される ICFIA 18 の実行委員長である Rangel 先生からご寄稿いただきました。ポルトは世界遺産にも登録された古い街で有名ですが、私も以前 Flow Analysis X (2006) 等で 2 回訪れたことがあります。峡谷を挟んで展開する街並みは中世の佇まいを残しており、ポートワイン（ブランデーで発酵止めしたワイン）の醸造でも有名です。今回も是非皆様と一緒できることを楽しみにしています。

指標欄は千葉大学の小熊先生にご寄稿いただきました。最近の JIS への採用に関連して、フローインジェクション分析を今後どのようにして発展させるべきか、先生の長年にわたる経験と見識に基づいた提言がなされています。

研究論文に関しては、今号では 4 報が掲載されました。このところ学術論文の掲載数が少なく、是非皆様からの積極的な投稿をお待ちしています。

解説記事としては山梨大学の鈴木先生から分光学的なハードウェアの作製法についてご寄稿いただきました。フォトダイオードは低電流、高発光効率で最近注目されているデバイスですが、波長の短いものも最近は販売されているとのことで、今後モバイル分析機器への搭載が進みそうです。

トピックスは吉備国際大学の天下先生からオンライン前処理報についてご寄稿いただき

ました。(株) 共立理化学研究所の原さんからはモノリスカラムを使用する FIA, SIA 装置を紹介していただきました。群馬大学の小崎さんからは有機酸、食品添加物への FIA 分析の新手法について解説していただきました。

徳島大学の竹内先生からは冒頭で述べました第 50 回フローインジェクション分析講演会の報告記事をいただきました。当日の活発な講演、議論、充実した懇親会の様子を記録していただきました。また、9 月にテサロニーキ（ギリシャ）で開催された Flow Analysis XII については主催者の Anthemidis 先生より報告記事をいただきました。私は残念ながら参加できなかったのですが、活発な会議のようすが文章と写真から覗えました。また、この会議の報告記事を徳島大学の大楠さんに学生の立場から報告していただきました。さらに、FIA 会員の活動状況に関する記事を（株）小川商会の樋口さんからいただきました。

タイトルサービスとして、竹内先生に学会情報をお願いしました。また、FIA Bibliography は神奈川工科大の飯田先生にお願いしていましたが、民間のデータベースが Web 媒体でも容易に活用できることから、このサービスは今回で終了となりました。これに代わる企画を新しく始める予定ですので、ご期待ください。

以上、会員の皆様には FIA 研究の発展に JFIA 誌をさらに積極的にご活用いただくと共に、編集委員会にも是非ご要望をお寄せいただき、紙面の充実にご協力いただければ幸いです。

JFIA 編集委員長 長岡 勉